令和7年3月25日
尼 崎 市 消 防 局

令和７年中の火災・救急・救助の状況（統計）

１　火災の発生状況

⑴　火災発生件数と火災による死者、負傷者の数

令和７年中の火災発生件数は129件で、火災による死者は４人、負傷者は18人でした。

	令和７年	令和６年	前年比較
火災の発生件数	129件	109件	20件増加
火災による死者の数	4人	3人	1人増加
火災による負傷者の数	16人	18人	2人減少

⑵　火災の種別

火災種別でみると、建物火災が最も多く、全体の62.0％を占めています。

また、建物火災の中でも、住宅で発生した火災は48件で、前年の41件よりも７件増加しています。

火災種別	令和６年	令和６年	前年比較
建物火災	80件	72件	8件増加
車両火災	11件	11件	増減なし
船舶火災	0件	0件	―
航空機火災	0件	0件	―
その他火災	38件	26件	12件増加

※その他火災とは、建物・車両・船舶・航空機火災以外の火災をいう

⑶　出火原因

出火原因でみると、たばこが１位で２位が電気機器・装置、３位が放火・放火の疑いの順となりました。

順位	令和７年	令和６年
１位	たばこ 23件	放火・放火の疑い 18件
２位	電気機器・装置 17件	たばこ 18件
３位	放火・放火の疑い 15件	電気機器・装置 13件

放火火災を防ぐ８つのポイント！

出火原因１位

たばこ火災を防ぐ４つのポイント！

出火原因２位

２　救急の出動状況

⑴　救急出動件数と搬送人員

令和７年中の救急出動件数は 34,653 件で、医療機関に搬送された人の数（搬送人員）は 29,575 人でした。

	令和７年	令和６年	前年比較
救急の出動件数	34,653 件	35,543 件	890 件減少
搬送人員	29,575 人	29,943 人	368 人減少

⑵　搬送人員の程度別

搬送人員を程度別でみると、軽症が最も多く、全体の 51.2%を占めています。

程度別	搬送人員	全体に占める割合※
軽　症（入院を必要としない程度）	15,146 人	51.2%
中等症（20 日以内の入院が必要な程度）	12,436 人	42.0%
重　症（21 日以上の入院が必要な程度）	1,706 人	5.8%
死　亡	287 人	1.0%

⑶　搬送人員の年齢別

搬送人員を年齢別でみると、高齢者が最も多く、全体の 63.8%を占めています。

年齢別	搬送人員	全体に占める割合※
新生児（生後 28 日未満）	49 人	0.2%
乳幼児（生後 28 日以上、7 歳未満）	1,371 人	4.6%
少　年（7 歳以上、18 歳未満）	829 人	2.8%
成　人（18 歳以上、65 歳未満）	8,446 人	28.6%
高齢者（65 歳以上）	18,880 人	63.8%

※全体に占める割合は、小数点以下第２位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも 100%となりません。

3　救助の出動状況

⑴　救助出動件数と救助人員

令和 7 年中の救助出動件数は 792 件で、救助された人の数（救助人員）は 339 人でした。

	令和 6 年	令和 6 年	前年比較
救助の出動件数	792 件	836 件	44 件減少
救助人員	339 人	387 人	48 人減少

⑵　事故種別

事故種別でみると、建物等による事故が最も多く、全体の 47.5%を占めています。

事故種別	令和 7 年	令和 6 年	前年比較
火災	28 件	26 件	2 件増加
交通事故	38 件	46 件	8 件減少
水難事故	15 件	10 件	5 件増加
自然災害事故	0 件	0 件	―
機械による事故	4 件	0 件	4 件増加
建物等による事故	349 件	397 件	48 件減少
ガス・酸欠事故	3 件	4 件	1 件減少
破裂事故	0 件	0 件	―
その他の事故	355 件	353 件	2 件増加

⑶　室内閉じ込め救助の状況

近年は、ひとり暮らしの高齢者が施錠された自宅の中で倒れて動けなくなり、家族やヘルパー等の支援関係者が室内に入れないといった事案（室内閉じ込め救助）が増加しています。

また、室内閉じ込め救助には、家人が外出していたものや、室内で寝ていたものなど、結果的に、緊急性のなかった事案も少なくありません。

	令和 7 年	令和 6 年	前年比較
室内閉じ込め救助の発生件数	539 件	597 件	58 件減少
救助出動全体に占める割合	68.1%	71.4%	3.3%減少
緊急性のなかった事案	268 件	268 件	―